

■平成 23 年度防災委員会現地見学会

□平成 23 年 7 月 30 日 (土) 14 時～

□高知県須崎市糺ヶ池～須崎港

□参加者数 学生・一般市民 11 名 四国本部会員 24 名、非会員 1 名：参加者合計 36 名

平成 23 年度防災委員会事業として、高知大学岡村教授を迎えて「糺ヶ池の津波堆積物と須崎港の津波対策」が開催されました。

見学会は、糺ヶ池で岡村教授の津波堆積物の説明と津波堆積物の土試料採取状況を見学し、その後須崎市内の津波関連の場所を訪ね、最後にハード対策の防波堤を見学しました。

日程（平成 23 年 7 月 30 日 土曜日）

時 間	イベント	場所
13:50	受付	須崎中央 IC 高架下臨時駐車場
14:00	開会あいさつ(委員長)	糺ヶ池
14:05 ～ 15:00	STOP1 津波堆積物についての説明と採取実演 (岡村先生)	糺ヶ池 池の内排水機場周辺
15:10	移動(徒歩)	徒歩3分 約270m
15:15	STOP2 「宝永(宝永)津波瀕死之塚」見学 移動(浜堤の上に形成された市街地通過、津波関連スポットをたどりながら)	お馬神社
	STOP3 須崎八幡宮を通過 (宝永の地震で神輿が伊豆まで流された?)	須崎八幡宮
	移動(徒歩)	
15:40	STOP4 津波防波堤(直轄事業)と海岸防波堤を見学	海岸
15:55	開会あいさつ(副委員長)	海岸
16:00	解散	



津波関連箇所の位置図

当日は天候に恵まれ、大変暑かったのですが見学会終了間際には曇り空となって少し涼しくなり、心地よい汗をかき無事終了しました。なお、見学会には須崎市自治会長の大家さんも飛び入り参加しました。



明坂防災委員長開催挨拶(右は岡村教授)

◆STOP1：津波堆積物についての説明と実演

須崎市周辺は、南海トラフを震源とする海溝性地震の度に約 1 m の地盤沈下を生じています。このため、糺ヶ池は津波が来襲する度に津波堆積物が連続して堆積しやすい環境下にあります。このことから、糺ヶ池では約 4,800 年前までの津波記録(採取した土試料に残存)が残っており、これまでに 14 層の津波堆積物が確認されているとのことでした。



津波堆積物の土試料採取実演



採取した津波堆積物について岡村教授の説明

◆STOP2：「寶永(宝永)津浪溺死之塚」慰霊碑

宝永地震の津波では、400名余りの人が亡くなりました。その後の150回忌に当たり安政3年(1856)に慰霊碑が建立されたとのことです。残念ながら昭和南海地震の津波の慰霊碑は建てられていないとのことでした。



「寶永(宝永)津浪溺死之塚」慰霊碑見学



「宝永津浪溺死之塚由来」の石碑

◆STOP3：須崎八幡宮

須崎八幡宮では、「宝永地震の津波で、須崎八幡宮の神輿が伊豆まで流されたが、流れ着いた伊豆では豊漁が続いた。この噂が須崎まで聞こえ、伊豆まで神輿を迎えに行った。」と高札に書かれてありました。



須崎八幡宮でひと休み



高札を見て感心

◆津波関連標識

最終地点の防波堤見学地点に行くまで、途中至る所に津波関連の標識がたくさんありました。改めて津波浸水予想地域の避難対策における関心度の高さを肌で感じました。



津波緊急避難場所を記した標識

◆STOP4：波防波堤(直轄事業)と海岸防波堤

見学会最終地点の須崎海岸で閉会しました。皆さんお疲れさまでした。



古野防災副委員長閉会の挨拶